

じゃがいも（春植え夏穫り、秋植え秋穫り）

栽培暦

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11
作型									
春植え 夏穫り		催芽	植付			収穫			
秋植え 秋穫り							植付		収穫

栽培の特徴とポイント

生育開始温度は約 10 とされ、茎葉の伸長適温 15~20、芋の肥大は 23 以上で抑制される。土壌 pH は、5.5~6.5 の範囲であれば問題ないので、石灰資材で pH を上げ過ぎないように注意する。

春作では、芋肥大期が高温期とならないよう、融雪後できるだけ早く植付けの準備に取り組み、3月下旬~4月中旬に植付けを終える。一方、早掘りしない場合は梅雨明け後の収穫となるため、イモの外観の低下や土中での腐敗が発生しやすい。そのため、あらかじめ排水の良い圃場を選び、病害虫防除を徹底しておく。

秋作では、植付け時期には内生休眠が完了している休眠の短い品種を使用する。休眠が明けていない場合は、萌芽が遅くなるため芽が不揃いになるだけでなく、生育期間が短くなり収量が低下する。また、極端な早植えは、高温による病害発生の恐れがあるので行わない。

品 種

1 春 作

男 爵 薯：いもの形状は扁球で芽が深く、粒ぞろいがよい極早生品種。食味はよいがウィルス病に弱い。

メークイン：男爵より細長く、形状の揃いはあまり良くない。煮くずれしにくい。

キタアカリ：皮色は黄色で目の部分に赤紫色の着色がある。煮くずれしやすい。

2 秋 作

農林1号：休眠期間は「男爵」より短く、秋作が可能。中~大いもが多く、平均一個重が大きい。

デジマ：休眠期間は、春産種いもで 64 日程度と「農林1号」より短い。皮が滑らかで外観が良い。

じゃがいもの主要品種とその主な特性表

品種名	早晩性	用途	いもの特性				
		食用 加工	形状	芽	肉色	肉質	煮崩
春作							
男爵薯	早生		扁形	深	白	粉	中
メークイン	中生		腎臓	中	白	中	少
キタアカリ	早生		楕円	中	黄	粉	易
秋作							
農林1号	中晩生		扁楕円	中	白	粉	中
デジマ	春秋兼		楕円	浅	淡黄	粉	中

催芽

休眠を打破し、植付け後早く萌芽させ、初期生育を促進させるため催芽を行う。但し、品種「男爵」においては、休眠は深いものの、早生のため早掘りが可能であるため露地栽培では、強制的な催芽処理は不要である。

1 浴光催芽

日光に当てることで、芽の徒長を抑えながら、保温する方法。分割前のいもを光が透るコンテナや箱に並べ、昼は20℃を目標とし、夜はシート等で保温する。気温が30℃以上にならないようにし、乾き過ぎた場合は水を噴霧する。催芽を揃えるため、2～3回は箱を積み替える。期間は15～20日程度とするが、芽の長さは1cm以下でよいので、過度の催芽とならないよう注意する。

2 冷床催芽

施設内の日当たりの良い場所に分割したいもを並べ、20日程度催芽する。芽の長さが1～2cmになったら、植付ける。

本ば管理

1 施肥

施肥例を参考に施用するが、砂土では窒素成分を、洪積層の黒ボク土ではリン酸を多めに施用する。また、春作では、肥効が遅くなるため、速効性の肥料を使用する。

地力が中程度の壤土ほ場での施肥例 (kg / 10 a)

肥料の種類	総量	基肥	追肥		成分量		
			1回	2回	N	P	K
(完熟堆肥)注1	(2,000)	(2,000)					
苦土石灰注2	100	100					
過石	30	30				5.1	
硝加磷安333号	200	160	20	20	26	26	26
合計					26	31.1	26

注1：完熟堆肥は、そうか病、肌あれを引き起こす可能性が高いため、前作に施用し、当該作では施用しない。

注2：じゃがいもの適pHは5.5～6.0であるので、既にpHが適正なほ場では施用しない。

2 耕起、畝立て

1) 土壤改良資材散布

苦土石灰、過石を全面散布、硝加磷安333号を160kg/畝の種芋植付け場所に相当する所に条施用(量は、施肥例を参照)し、できるだけ深く耕起する。

2) 畝立て

覆土、土寄せを行うため、畝を作る必要はない。耕起したほ場に80cm間隔でいもを並べ、覆土の際にできた溝を排水溝とする(3 植付けの項 参照)。排水不良なほ場では、80cm毎に畝高5cm程度の畝を立て、その上にいもを並べ、覆土してもよい。

3 植付け

1) 時期 春作：3月下旬～5月上旬、秋作：8月中～下旬

2) 栽植方法 畝幅 0.8m × 株間 30cm 1条植え = 4,000株/10a
切り口を下にして並べ、覆土する。

3) 必要種芋量 50g / 1片(分割後) × 4,000株 = 200kg/10a

- 4)種芋分割 1片が50gとなるよう頂基軸に沿って縦割する。
- 5)種芋消毒 そうか病等の予防のため、防除指針により種芋消毒を実施しておく。
- 6)覆土 春作では7～8cmとやや多めにかける霜害を防ぐ。秋作では、5cm程度でよい。マルチ栽培など土寄せを行わない場合は、12cm程度の深度になるようにする。
- 7)除草剤散布 覆土後、できるだけ早く土壌処理剤を散布する。

4 芽かき

- 1)実施時期 芽が3～5cmの長さになった頃
- 2)方 法 1株1～2本立てとし、地力のあるほ場で2本、地力の弱いほ場で1本立てとする。

5 追肥、土寄せ（排水対策）

- 1)実施時期 1回目：草丈15cm頃、2回目：出蕾期（主茎につぼみが見え始める頃）
- 2)方 法 溝又は畝肩に追肥施用後（量は施肥例を参照）、覆土深（寄せる土の量）10cmを目安に土寄せを行う。

土寄せ量が不足すると、着生するいもが地上に露出し、緑化してしまうので、十分に行う。

- 3)排水対策 いもの肥大最盛期は梅雨期にあたるので、停滞水による生育の抑制や病害発生を抑えるため、土寄せ時にできた溝はつなぎ、排水口としっかり連結させる。

6 収穫

- 1)実施時期 茎葉が黄変した頃が目安であるが、試し掘りを行い、十分な肥大が確認できた頃から早掘りする方法もある。この場合、L品（120～180g）に達しているいもの有無を目安とする。
- 2)茎葉処理 掘り取りの1週間前に茎葉を刈り取っておくと、剥皮しにくい。
- 3)方 法 晴天からやや曇天の日を選んで、掘り取る。畝上で1～2時間乾かし、土が落ち易くなった頃に収穫すると皮が痛みにくい。
- 4)収 納 収穫したいもは、直射日光が当たらない、風通しのよい所に広げ、3～4日間よく乾かしてから、選別・調製する。

7 調製

- 1)格外品分別 日焼け、緑化、奇形、有傷、虫害のあるものを取り除く。
- 2)箱 詰 め 土や砂が異常に付着しているものを除き、大小区分に従い10kg入りの段ボールに入れる。

病害虫防除

1 疫病

葉に褐色の病斑を生じ、表面に白色粉状のかびが発生する。いもに感染した場合、表面に褐色の病斑を生じ腐敗する。低気温、多湿、窒素過多条件で発生しやすい。特に収穫期に平均気温15～16で降雨が2～3日続いた場合、激発しやすい。対策として、高畝で排水を良くする、発生初期に薬剤防除を実施する。

2 そうか病

いも表面に淡褐色のかさぶた状のやや盛り上がった病斑ができる。砂質土、アルカリ性土壌、有機物の多い熟畑土で発生しやすい。土壌の温度が20～22で土壌の湿度が低い場合に激発しやすい。対策として、無病の種いもを使用する、石灰の施用を避ける、輪作する。畝表面に敷きワラを行い地温を下げる方法も有効であるが、土寄せ時に鋤き込むと発生を助長するので、ワラは鋤き込まない。

3 黒あざ病

萌芽期では、茎の基部が暗褐色にくびれ、表面に白色のかびが発生する。いもの表面には、黒褐色のやや盛り上がった菌核ができる。生育期には、頂葉が小型になり、葉は上方に巻き、時には空中塊茎を

生ずる。土壌伝染し、低温で発病が助長されるため、極端な早植えで萌芽がおくれると激発しやすい。対策として、催芽による萌芽日数の短縮、種いも消毒、輪作する。

4 アブラムシ類

多発した場合は、葉の吸汁害が問題となるが、むしろウイルス病を伝染させる害の方が影響は大きい。植付け時の予防剤や生育期の地上防除剤で対処する。

5 ネキリムシ、ケラ

土中で新生芋や芽を食害する。植付け時に予防剤を施用しておく。

生理障害による奇形いも

1 中心空洞

いもの内部が空洞化し、その部分が褐変する。大いも、扁平いもに発生しやすく、品種別では男爵の大いもに発生しやすい。多湿条件で急速に肥大した時や肥大後期に干ばつに遭遇すると発生しやすい。防止策としては、N（窒素）/K（加里）比を小さくした施肥をする、密植する方法がある。貯蔵中の積み重ねによる高温で発生する「黒色心腐」も空洞は発生しないが類似症状なので注意する。

2 褐色心腐

いもの肉質部に大小の褐色斑点が散在する。生育中期の高温、干ばつにより発生する。場合によっては、ホウ素欠乏の時もある。防止策としては、干ばつ時の灌水や保水力を高める土作りがある。

3 2次成長

新生いもの上にコブ状の小さいいもが形成される。乾燥後の高温と多雨、特に高地温で発生が起こる。窒素の多肥も発生を助長する。防止策としては、十分な土寄せ量を確保し、一定の地温が保たれるようにする。



写真 2次成長いも

販売のポイント

- 1 周年を通して安定した需要のある品目であるため、出荷を開始したら、一定期間は継続出荷を行い産地の売り場やチャンネルを確保する。
- 2 直売所や学校給食のアイテムとしても使い易く、人気も高い。
- 3 新しい品種は、調理用途が狭いものが多いので、調理法の提案等の消費者対策を実施する。